

日本鉄鋼協会記事

理 事 会

第8回理事会 開催日：11月22日。出席者：佐野会長
他31名。

会議事項

1. 石炭成形法委員会設置に関する件
さきに完了した国内炭活用製鉄用コークス製造試験に使用した設備の処分利用について検討中のところ次の結論を得た。
(1) 国内炭活用製鉄用コークス製造試験委員会は解散する。
(2) 石炭成形法委員会を新たに設け設備の保全、処分などの残存業務と必要と認められる共同研究目的のために設備を利用、試験を行なう。
- 承認
2. 共同研究会製鋼部会長、特殊鋼部会長の解嘱ならびに委嘱の件
製鋼部会長、井上敏郎君（八幡製鉄堺製鉄所副所長）を解嘱し、池田正君（八幡製鉄取締役）を委嘱することに決定。
特殊鋼部会長、磐城恒隆君（東北特殊鋼副社長）を解嘱し、中野邦弘君（大同製鋼常務）を委嘱することに決定。
4. 編集委員委嘱に関する件
井形直弘君（東京大学工学部助教授）氏家信久君（石川島播磨重工業）を編集委員会欧文会誌分科会委員に委嘱することを決定。

第9回理事会 開催日：12月20日。出席者：佐野会長
他34名。

会議事項

1. 第1回国際会議準備委員会報告
12月14日第1回の委員会を開催した。金属学会の例などについて橋口副会長より説明があつた。結論は出なかつたが当分現在の規模で準備を進め、具体的な問題が提起され次第専門分野の方にご参加願う予定である。
2. 来年度事業計画案および予算編成に関する件
42年度収支予算案につき逐一詳細なる説明があつた。結論として事業を縮小しない限り維持会員の値上げの線に進むほか方法がない。緻密な納得できる数字を各社に提示し、ご協力を願うことになつた。
3. 表彰選考委員会委員長委嘱の件
委員長 佐野会長
委員 橋口、武田両副会長、伊木企画委員長、今井研究委員長、荒木編集委員長、三島、山岡、沢村各前会長、木寺常務委員

以上の通り委嘱を決定。

4. 第7回工業材料展協賛に関する件
日時 42年3月9～14日
場所 都立産業会館

主催 日刊工業新聞社

協賛依頼 86関係会学および産業団体協賛に決定。

企 画 委 員 会

第7回委員会 開催日：11月18日。出席者：伊木委員長
他20名。

会議事項

1. 研究委員会規程制定に関する件
字句などにつき討議したが、次回研究委員会での佐野会長の意見を参考にし、さらに庶務分科会でねり直すことになつた。
2. 昭和42年度事業計画ならびに予算編成方針に関する件
42年度事業計画においてクリープ委員会費基礎共同研究会費が問題点で、委員長会議においてさらに検討する予定である。
3. 名譽会員推挙に関する件
Mr. B. E. Ameen (スエーデン)
Mr. K. L. Fetters (アメリカ)
Prof. Dr. R. W. K. Honeycombe (イギリス)
Dr. L. S. Darken (アメリカ)
Mr. J. P. Roche (アメリカ)

の5名を来春の総会で推挙する予定で準備を進める。

第8回委員会 開催日：12月19日。出席者：伊木委員長
他19名。

会議事項

1. 来年度事業計画案および予算案編成に関する件
維持会費を現状のまま事業を縮小しないという方針で42年度収支予算案を作成した。その結果を表にまとめたが、要求額は約1億6千万円、これのできる限り削つて1億2千万円程度にする。この数字は積立も一切行なわず、また共同研究会費における7社派遣員の旅費を各社で負担するなど大巾に削減したものである。この支出額でも約5百万円の赤字となり、どうしても維持会費を値上げせねばならぬ状態である。各社の都合もあり、納得できる数字をのせた資料を作成し、理事会に諮りこの線に沿つて以後各社の了承を得るよう進めることになつた。
2. 第11回材料研究連合講演会参加に関する件
日時 42年9月7、8日
場所 東京
共催 日本学術材料研究連絡委員会ほか
分担金 1口5千円
参加することに決定。
3. 第7回工業材料展の協賛を決定

編集委員会

第3回編集運営委員会 開催日：1月23日。出席者：荒木委員長他13名。

会議事項

1. 和文会誌分科会，欧文会誌分科会，出版分科会，講演大会分科会，からの報告。

(1) 会誌のあり方については，小委員会をつくり，検討することになった。

(2) 出版規程については，一部修正のあと，企画委員会に提出することになった。

2. 委員委嘱について

講演大会分科会委員に

下川敬治君（八幡製鉄（株）技術開発部副長）を委嘱することになった。

第3回講演大会・第10回和文会誌合同分科会

開催日：12月23，24日。出席者：荒木，草川主査他20名

会議事項

1. 講演大会プログラム編成

第73回講演大会における講演論文の審査報告の後講演プログラムの編成を行なった。

申込数

第1種講演 133件

第2種講演 125件

講演時間は第1種，第2種講演とも質疑5分を含み20分間とし，それぞれ関連講演を8会場に分け編成した。今回より共研，委員会報告講演は特別に会場はもうけず関係会場で一般講演と平行して行なうことになった。

第11回和文会誌分科会 開催日：1月17日。出席者：荒木主査他9名。

会議事項

1. 俄論文賞選考について

推薦論文が6件あり俄論文賞小委員会にて検討することになった。

2. 鉄と鋼のあり方について

鉄と鋼の今後のあり方について Free Talking を行なった。

講演数がふえ，すべての点において無理がでてきたので第1種，第2種講演にわけたが現在のままでは講演論文，論文，総合論文の3種類の論文をつくらなければならない状態にあり，会員に混乱をまねく恐れがある。内容的に設備関係の論文も大いに受け入れるべきだ，などの意見が出，会誌と論文集にわけるべきではないかということになり，編集運営委員会で検討することになった。

第4回出版分科会 開催日：1月12日。出席者：佐藤主査他9名。

会議事項

1. 出版規程について

数回にわたり出版規程について検討を行なってきた結果まとめた原案を編集運営委員会に提出することになった。

2. 「分析部会報告書」「分塊分科会報告書」「計測部会報告書」について

上記の報告書出版の希望があり，出版規程に従って企画書を提出依頼することになった。

3. 「鋼の熱処理」編集について

出版分科会において次回に企画書を作成することになった。

第8回欧文会誌分科会 開催日：12月20日。出席者：

橋口主査他17名。

会議事項

1. 第7回分科会で新設の決定をした Short Notes は Research Notes と改称することに決定した。

2. Transactions 国内個人寄贈先については，本誌8巻1号から名誉会員，前会長以外の個人には寄贈しないことに決定した。

3. Transactions 6巻6号の掲載論文決定。

4. Transactions 7巻1号より，論文脚注欄の著者の肩書を記載しない。また7巻1号から各巻通しページのみで各号別ページは記載しない。

5. (1) 論文査読報告：掲載決定したもの1件，返却1件。

(2) 執筆依頼論文として委員より推薦された5件のうち，4件の依頼が決定した。

その他：著者に査読結果を伝える文書，英文校閲料金，文献略記表現については次回分科会で審議する。

第9回分科会 開催日：1月23日。出席者：橋口主査他15名。

会議事項

1. 今回は英文校閲者2名臨席のもとに日本語原稿の要否，校閲料金について審議した。結果，日本語原稿は必要とする場合以外強要しないが，すでに日本語原稿のある場合には必ず提出してもらうことに決定した。校閲料金については原稿の英文程度により3段階の校閲料が決められた。

2. 著者に論文修正依頼と返却の際に発送する文書が定められた。

3. 文献の略記表現は担当委員の起案そのままに決定した。

4. 新鋭工場，最も新しい設備を紹介する欄を新設し，年に1，2回掲載する。表題は Technical Features とすることに決定した。

5. (1) 論文査読報告：掲載と決つたもの2件，修正依頼1件。

(2) 執筆依頼を委員より推薦された10論文のうち8件の依頼が決定した。そのうち3件は外国人による論文である。

資料委員会

第37回委員会 開催日：1月18日。出席者：草川委員長他15名。

会議事項

1. Trans B.I.S.I. は，利用度の面から，現在の4分類から，22分類にしてはという意見があつたが，事務が繁雑化しその他いろいろの点で今年度は，昨年通りに注文し今年度11月までに，各社で利用度をチェックし来年度の方針を決定することになった。

2. 会誌3月号の“資料室だより”には，国内国外の雑誌リストを掲載することになった。

3. 鉄連発行「資料月報」に協会資料については
(1)協会の委員会関係資料, (2)国際会議資料,
(3)新着図書, (4)研究レポート類を掲載することにな
った。

4. 昭和42年度資料係事業については, 事務局の書類
を3カ年計画で整備することになった。41年度の残金で
は, 辞書類を購入することにした。

共同研究会

圧延理論分科会

第30回分科会 開催日: 10月26, 27日。出席者: 岡本
主査他43名。

会議事項

1. 熱間変形抵抗の共同実験の最終報告が行なわれ
た。
2. 冷間圧延の摩擦係数に関する実験結果が東洋鋼板
および芝共より報告された。
3. 熱間圧延関係では住金, 富士鉄, 鋼管より発表が
行なわれた。
4. 今後の分科会の運営方針が検討され, 熱間変形抵
抗, 振り試験, 熱間圧延, 冷間圧延, 製管の部門にわけ
担当幹事を置いて運営していくことにした。
5. “圧延理論と変形抵抗”の改訂について
数年前に発刊した“圧延理論と変形抵抗”を改訂する
ことにし, 42年春より編集委員会を発足させることにし
た。
6. 住金, 製鋼所を見学。

鋼板部会

厚板分科会

第22回分科会 開催日: 20月5, 6日。出席者: 芝崎
部会長, 吉田主査他50名。

会議事項

1. 共通議題
作業成績調査表, 検査成績調査表, 作業時間および原
単位調査表, 作業定員調査表が発表された。
2. 特別議題
新設加熱炉について, 加熱炉の改造について, 加熱炉
操業について発表された。
3. 文献紹介
中山製鋼より REHEAT FURNACES の文献紹介がなさ
れた。
4. 新規入会について
かねてより東海鋼業の入会申し込みがあつたがこの件
は全会一致で承認された。これで会員は11社になった。
5. 見学会
日本製鋼所, 圧延工場および機械工場を見学した。

新技術開発部会

直接還元法分科会

第15回分科会 開催日: 12月21日。出席者: 松下主査
他20名。

会議事項

1. 乾炉ダストから製造したペレットの回転炉による
還元に関する研究(2)

昭和41年4月より試験してきた, 上記研究結果につ
いて金材技研田中氏より報告があり, 2, 3の質疑応答
が行なわれた。

2. 平炉ダストを原料とした還元ペレットの製造につ
いて

富士中研より, 平炉ダストの有効利用法の1つとし
て, ペレットにし, 還元脱亜鉛する方法について, 研
究報告が行なわれた。

3. 各国の直接還元法の現状について

川鉄原田氏より, 世界各国の原料面, 強粘結炭の推
移, 高炉の限界, 生産価格などの説明を通じ, 直接製
鉄法の位置付けが明らかにされた。

クレーンスケール小委員会

第4回小委員会 開催日: 12月8日。出席者: 岡部小
委員長他26名。

会議事項

大和製衡, 事務局より経過報告があつた。仕作機の仕
様および図面が承認され試作に取りかかることになつ
た。

前回の決定に従いロードセルの問題点について10編の
提出資料に基づき討議した。

討議事項

- 1) 各種ロードセルの比較
- 2) ロードセルの設置法
- 3) ロードセルに直接荷重をかける場合と, てこを介
して荷重をかける方法とどちらがよいか。
- 4) ロードセルの位置と設置位置のきめ方
- 5) 温度の影響とその補償方法
- 6) 直流方式と交流方式の比較
- 7) 精度について

製鉄体系の自動化分科会

第2回分科会 開催日: 12月21日。出席者: 雀部部会
長(主査)他15名。

会議事項

1. 電子計算機の発展状況について

日本電子工業振興協会の岡田氏より, 一般的な電子
計算機の現状と将来, 電子計算システム, プログラミ
ング, について幻燈により講演があり, 若干の質疑応
答が行なわれた。

2. 各社の自動化の動きについて

富士製鉄, 住友金属よりそれぞれ資料が提出され,
原料処理, 製鉄, 製鋼, 圧延のそれぞれの行程につ
いて, 自動化の考え方および現在までの歩みを中心とし
て説明が行なわれた。

3. 文献紹介

東大生研より Spray steel making および Russian
continuous converter について文献の紹介があり,
若干の討議が行なわれた。

なお次回に, 鉄連より, 製鉄会社の Computer の設
置状況および使用状況について説明が行なわれること
になつた。

鉄鋼分析部会

鋼中非金属介在物分析小委員会

第9回小委員会 開催日：12月2日。出席者：前川小委員長他12名。

会議事項

決定事項

1. 酸溶解法第1回共同実験で、酸による分解法が統一を欠いた点があるので、同じ試料について再度検討する。組成分析に関しては別に行なう合成試料による検討結果を参考として行なう。試料は日鋼 E, O とし小委員長から12月末までに各委員に送付し結果の報告は昭和42年1月末までとし、VF法は行なわない。

2. 組成分析法の検討を合成試料を用いて行なう。試料は SiO_2 , Al_2O_3 , FeO , MnO の4成分3種類とし、調製を神森氏(八幡東研)が担当して12月中旬に各委員に送付、結果の集約は小委員長が行なう。分析法は各所の現行法とし、分析結果は昭和42年1月末までに小委員長に報告する。

3. 共同実験試料日鋼 E, O 介在物中の CaO , MgO などの確認のため、次回までに川鉄、日鋼が EMX によつて組成分析を行ない資料を提出する。

4. 介在物中の CaO , MgO の分析法を自発研究の形式で検討する。

石炭成型法委員会

第2回委員会 開催日：12月16日。出席者：久田委員長他15名。

会議事項

1. 当委員会の下部組織である共同研究実行小委員会を共同研究準備小委員会と名称変更

2. 装入炭層密度測定実験計画について

(1) 富士鉄室蘭より乾燥石炭を運搬する案

(2) 八幡で鉄板オンドルを使用する案

の両案を討議した結果(2)案について今後検討を進めることになった。

標準化委員会

鋼管用熱間圧延低炭素鋼帯 JIS 原案分科会

第4回分科会 開催日：12月21日。出席者：下川主査他19名。

会議事項

規格名称には鋼管用という言葉を入れないものと考え機械的性質を主体としたものになることになった。

1. 化学成分は機械的性質を満足するように再検討する。

2. 厚さ許容差

一般用と公差がシビアな電線管用と2種ぐらいにわけられる方向で考える。

3. 横曲りは幅に関係なく規定することになった。

4. 重量

JIS G 3193 を引用し短尺のものについては協定にすることになった。

機械試験方法 JIS 原案作成分科会

第2回分科会 開催日：10月28日。出席者：吉沢主査他22名。

会議事項

前回提案された問題点、およびアンケート結果を参考に

1. 一号引張試験片の巾

2. 短冊形引張試験片の棄却

3. 引張試験片のつかみ部分の寸法

4. 5号試片の欠点を改めた試片

5. ISO R82 のごとき比例寸法引張試験片などについて審議した。

第3回分科会 開催日：12月9日。出席者：吉沢主査他24名。

会議事項

前回に引き継ぎアンケートを参考に引張試験に関し

1. 試片巾の不同許容値

2. 10号試片の溶着金属への適用について

3. 降伏点の定義

4. 引張速度

5. 試験温度など

を審議した。

これらの審議結果をもとに、一次粗案を次回前に作成し、次回よりこれにより審議を進めることにした。

機械試験方法分科会

第14回分科会 開催日：11月1日。出席者：吉沢委員長他12名。

会議事項

前回に引き継ぎ、スーパーフィシャルロックウエル硬さ試験に関するISO案を審議した。問題になった主な事項は次の通り。

1. スポットアンピルの具備すべき要件および用途

2. 基準荷重から試験荷重までの時間(4~8sec が最適)

3. 硬さ指示計の許容値

4. 硬さ基準片の寸法

鋼管分科会

第11回分科会 開催日：12月20日。出席者：桑原主査他12名。

会議事項

今回より当分科会主査が住金下川氏より桑原氏に交替になった。

1. ISO/TC17/WG10 圧力容器用鋼材、第1回鋼管分科会(1966. 9. 21~23)の出張報告(主査)

2. ISO/TC17/WG10 圧力容器用鋼管に対する提案の日本の意見を検討した。

3. ISO/TC17 & TC11 圧力容器用鋼材の低温における試験値を求められているので各社でデータを出すことになった。

4. JIS 構造用鋼管規格の次回改正のための検討状況(鋼構造協会)の報告(主査)

5. JIS 配管用鋼管規格の審議状況の報告(幹事会社日本鋼管)

6. JIS 熱伝達用鋼管の改正に関するスケジュール次回までに各社問題点を出しその多少によりスケジュ

ールを検討することになった。

鉄鋼照射試験研究合同委員会

第23回委員会 開催日：11月14日。出席者：長谷川委員長他36名。

会議事項

1. 昭和38年度分
成果報告提出要領の確認を行なった。
2. 昭和39年度分

原研での照射性試験経過報告があつた。

3. 昭和40年度分

照射後の遷移曲線の予想に関し3件報告書が提出され説明があつた。

照射前試験および炉外試験各1編の提出資料があり説明があつた。

4. 昭和42年度計画

次回幹事会に各社テーマを持ちより来年度試験を行なうかどうか検討することになった。

新 入 会 員 氏 名

(昭和41年12月1日~31日)

正 会 員		新 入 会 員 氏 名	
会田 敏男	八幡製鉄(株)東研	村上 計二	川崎製鉄(株)千葉
桜田 泰生	〃 〃	三村 滋	富士製鉄(株)本社
常盤 憲司	〃 〃	吉谷 豊	〃 〃
原 行明	〃 〃	小杉 允	三菱製鋼(株)東京
湯川 憲一	〃 〃	高橋 八郎	〃 〃
飯田 賢一	〃 本社	平田 二郎	(株)日本製鋼所広島
高梨 和夫	〃 堺	久野 敏哉	東海製鉄(株)
井裕 弘	(株)神戸鉄鋼所神戸	友沢 宣行	大鉄工業(株)
田中 孝三	〃 〃	築田 凌一	帝国産業(株)津田
高見 満矩	〃 〃	須山 昇司	三菱重工(株)神戸
原口春一郎	〃 〃	鈴木 政人	三興製鋼(株)
樋口 資隆	〃 〃	高松 靖	日本電気(株)
大木 聡紀	〃 尼崎	宇塚 恭治	自動車鑄物(株)
黒岩 真一	日本鋼管(株)鶴見	秋野 和敏	昭和電工(株)富山
小柳 雅嗣	〃 〃	三輪 英逸	富士三機鋼管(株)
鈴木 基也	〃 〃	宮内 邦雄	理化学研究所
上村 治男	〃 川崎	岡田 吉二	日本耐火工業(株)
西村 文宏	〃 〃	小海 昇	日本揮発油(株)
青木 恒三	東洋工業(株)	中村靖一郎	西武化学工業(株)
明石 雅男	〃	山口 宗之	久保田鉄工(株)
森下 強	〃	木谷 滋	日本ステンレス(株)
矢加部淳一郎	〃	新山 俊六	特殊製鋼(株)技研
岩本 一司	日新製鋼(株)周南	広田 和士	東京工業大学
金刺 久義	〃 〃	磯部 武志	関東学院大学
前北 杲彦	〃 〃	川崎 頼雄	熊本大学
井島 昇	住友金属工業(株)	重松 信一	鉄鋼短期大学
	和歌山	佐々 健介	名古屋大学
般戸 康夫	〃 中技研	小川 敏彦	日本大学
西田 和彦	〃 〃	猪子富久治	大阪大学
岡部 俠児	川崎製鉄(株)千葉		学 生 会 員
		池田 房夫	秋田大学鉱山学部
		尾張谷 正孝	秋田大学鉱山学部
		大川 義弘	〃 〃
		木村三四郎	〃 〃
		佐藤 博美	〃 〃
		竹内 肇	〃 〃
		真島 利紀	〃 〃
		山方 三郎	〃 〃
		荒戸 信正	鉄鋼短期大学鉄鋼科
		池田 武司	〃 〃
		越智 昭明	〃 〃
		近江田耕三	〃 〃
		奥山 雅義	〃 〃
		森 祐宏	〃 〃
		溝口 省三	〃 〃
		吉田 朝雄	〃 〃
		桂 成司	関西大学工学部
		西村 公雄	〃 〃
		松井 敏	〃 〃
		坪田 一哉	東北大学工学部
		福田 次男	〃 大学院
		佐野 紀洋	東京工業大学金属工学科
		平松 洋之	京都大学大学院
		江原隆一郎	名古屋大学大学院
		川崎 正之	大阪府立大学工学部
			外 国 会 員
		J. E. Russell	(England)
		W. E. Fuller	(England)
		Pol Boel	(Belgique)
		徐弘三	(韓国)